

笠松の奴行列やしこ

笠松の奴行列の起こりは江戸時代後期から行われてきたと言われています。美濃国の幕府直轄領を支配する美濃郡代(代官)の陣屋が置かれ、明治維新まで二十五代の代官・郡代が着任し、地方支配にあたってきました。

特に嘉永四年(一八五二)十月に伯耆国(鳥取県)石見銀山代官から転任してきた第二十四代岩田勘三郎郡代は慶応三年(一八六七)依頼退職して交代寄合に列せられるまでの十六年間の長期にわたって笠松に在勤し、幕末情勢に対して処しました。なかでも、文久元年(一八六一)の皇女和宮降嫁に際して岩田郡代より動員を受けた笠松の町衆は、郷足軽として長柄持役・奴として毛槍役などに従ったといえます。

明治維新後、笠松の司町・港町の町民は岩田郡代の遺徳を偲び、郡代の格式にあわせて大名行列の諸道具を全国に求め、笠松まつりの祭礼余興として復活させました。

この行列は、江戸時代の大名

行列の先頭部分を構成した、いわゆる「奴の毛槍振り(踊り)」を中心に梵天・露弘・対箱・お弓・鉄砲・花笠・立傘・台傘・家老・お駕籠・お殿・徒士・片箱・具足櫃など、総勢役一八〇名からなる壮大なもので、大羽熊・大鳥毛といった毛槍を活気ある掛け声(サー、サーヨイヤナ、コラ、コラッサーノサ)とともに投げ渡しながら町中を練り歩く様子は全国的にも例をみない妙技です。

司町・港町の二町内で伝承し、隔年毎に実施していましたが、町の重要な財産であり、後世に伝えることはもとより地域の活性化に資するべきものであるということから、平成三年十月に町内会連合会、司町、港町の有志が発起人となり、保存会が設立されました。現在、保存会を中心とし、町全体で貴重な行列の保存継承に努められ、毎年四月の春まつりに八幡神社と産霊神社の例祭に奉芸されています。また、奴行列の「奴の毛槍振り(踊り)」の部分が平成七年十一月に岐阜県重要無形民俗文化財の指定を受けています。

資料館で行列の道具などを展示し、紹介しています。

企画展

「笠松をささえた木曾川」

川、橋、川まつり、災害など木曾川の歴史を知っていただくため、筏、大船、川並絵図および聖牛など多数展示します。お誘い合わせのうえ、是非お出かけください。

【会 期】4月1日(火)~6月8日(日)

【開館時間】午前9時~午後5時

【休 館 日】月曜日(祝日の場合はその翌日)

【問 合 先】町民俗資料館 ☎388・0161



行政相談	行政相談委員	加藤 司郎	県町105	☎387・2793
人権相談	人権擁護委員	齋藤 好子	中川町20	☎387・0812
		保母 勝壽	弥生町30	☎387・2782
		後藤 稔	北及1183	☎388・1495
		杉原 貴子	中野256	☎388・3438

行政相談、人権相談は自宅でも応じています。いずれの相談も秘密は固く守られますのでお気軽にご相談ください。

行政相談 人権相談